

I 実践

1 全校スローガン

生徒会が中心となって、人権意識が高まる全校スローガンを考案した。「バタフライエフェクト」～意志を強く持て！周りにだまされるな！では、少しの行動が大きな結果を生み出すということを協調するスローガンとなった。よりよい生活のためには、規範意識を高く持ち生活することの重要性を認識することにつながった。

2 全校道徳 いじめストップフォーラムの実施 思いやりの木作成

令和3年度は、人権の課題と深く関係のある「いじめ」に焦点を当て、学校全体でいじめストップフォーラムを実施した。いじめについて深く考え、縦割りグループを作り、1年2年3年生がそれぞれ意見や考えを深め合う集会を行った。いじめストップフォーラムで出た意見や考えを集会委員会が集約して、思いやりの木としてふさわしい言葉を並び替え、大きく中身のある木を完成させた。生徒が、いじめは人権を著しく侵害する行為であるという認識をもち、「STOP いじめ」という理解につなげることができた。

3 人権メッセージへの応募（全校生徒）

全校で身近なところにある人権に関する体験や思いをメッセージにして、県主催の「人権メッセージ」へ応募した。メッセージを書くに当たっては、生徒が日頃感じている相手の思いやること、お互いに個性を認め合うこと、差別や偏見に対して感じていること、自分の人生で大切に思っていること等をメッセージとして書き起こせるよう各担任が学級指導を行った。特に3年生は、差別、LGBT、同和問題など社会問題とも合わせて身近で起きている様々な出来事を人権という視点から、メッセージ記入につなげることができた。自分の大切さとともに、他の人も大切にしようとする思いを高めることができた。

4 「心の賞賛状」の実施

校長先生が生徒の良いところを見つけ、そのたびごとに表彰を行ってきた。教師が生徒の思いやりのある行動を見つけ、称賛することで自己肯定感を高めることができ、他者を思いやる行動が増えている。

5 教職員の人権教育への意識の啓発

職員研修の中では、人権教育に対する意識を確認するチェックリストや「人権教育実践事例集」などを活用して、教職員の人権意識の深化を図った。こうしたことにより、職員間での人権教育に関する話題が増え、生徒の人権に対する教職員の意識の高揚につながっている。

6 自己肯定感を高めることをテーマにした道徳の授業実践（学校課題研究への取組）

自己肯定感を高めることをテーマとする道徳の授業実践を学校課題研究として、研究主任を中心に全職員で取り組んでいる。最大年間 35 時間の授業時間の確保（休校期間を除く）、各学期に校内授業研究会の実施、担任以外が道徳の授業を行うローテーション授業等の実践を行った。学校課題研究に位置付けることで、全職員が意欲的に取り組み、授業力を高めてきたことで、毎週の道徳の時間をより充実させることができた。こうしたことにより、生徒の自己肯定感を高め、学校全体での人権意識の啓発を行ってきた。

8 成果

こうした取り組みにより、人権に関する問題が生徒自身の身近な生活の中に多く存在していること意識することに繋がっている。「人権」と聞き、大切なものであるとは分かりながらも、その言葉の指す意味を明確には理解していない生徒が多いかもしれない。しかし、毎週行われる道徳の授業を中心としながら、様々な実践を通して、本校生徒は「命を大切にすること」や「他者の気持ちを考え、級友などと気持ちの良い生活を送ること」の重要性を良く理解していると感じている。今後も教職員一丸となって、人権教育の推進に向けて、様々な教育実践を行っていきたい。

Ⅱ 今後の課題

人権教育の目標と内容を検討し、それらを各教科・道徳・特別活動等のそれぞれの特質に応じて年間指導計画に位置づけ、教育活動全体を通して指導の充実に努める。

Ⅲ 人権コーナーの設置の様子



日高中学校の人権コーナー
(全校いじめストップフォーラムの
スローガンを掲示)